

～子ども会育成会主催 公民館に泊まって遊ぼう!～



▲夕食作りはうまくいったかな?



▲パチパチきらきら手持ち花火

～福祉ひろば・公民館 夏休み企画～



▲宝石みたいなお菓子作り



▲紙モルックで大盛り上がり!

城北の夏



城北



|            |       |
|------------|-------|
| 令和8年9月1日現在 |       |
| 総世帯数       | 3,800 |
| 総人口        | 7,610 |
| 男          | 3,606 |
| 女          | 4,004 |

北馬場七夕まつり

8月3日夕方より

北馬場柳の井戸にて

町会行事の七夕飾り付けをした後に、町内のお子さんのバイオリン演奏で「七夕様」を全員で歌唱しました。

七夕様を唱う機会もなかなか無いですが、バイオリンの生演奏で唱うということは初めてで「素敵な音色に合わせて唄えて楽しかった」と参加者達は口々に話していました。



▲さ～さ～の～は～ さ～らさ～♪



▲田町町会 青山様



▲蟻ヶ崎東町会 子ども夏祭り



▲蟻ヶ崎北町会 青山様・ぼんぼん



▲徒士町・旗町町会 子ども会の花火会



▲西町・堂町町会 SUMMER FESTIVAL



▲沢村町会 納涼祭

# 大人の工場見学

7月7日に公民館主催の大人の工場見学会に29名の方と参加してきました。

出発時は松本は曇っていますが、途中休憩を入れてほぼ予定通りの時間に南アルプスの東斜面沿いの飯田町の久根平工業団地にある内堀醸造株式会社のアルプス工場に到着しました。工場では2名の担当者より休憩室で工場の概要、酢の製造工程等の説明を受けました。酢の工程はほぼほぼ日本酒の製造工程に準じていることや米は自社で精米していること、酢に添加している出汁についても材料から工場で製造しているなどの説明を受け、説明後に実際に工場の設備や仕込みから瓶詰



様々なお酢の商品がずらり



▲食い入るように説明を聞く参加者

の工程等の見学をしました。当日参加の大人の皆さんには、階段の上り下りが地味に足回りに堪えていたようでした。

一通り見学をした後で、工場の製品の試飲をしました。主にフルーツビネガー7種類と新生姜の酢漬けでしたが、フルーツビネガーでは白ブドウの酢がひと瓶がほぼ空になっていました。

試飲後酢の健康的な使い方についての説明をしていただきました。工場出発前には製品の割引販売をしていただき皆さんそれぞれ気に入った製品を購入していました。

午後は駒ヶ根市にあるくらすわの森にある養命酒ミュージアム駒ヶ根の工場見学会をしました。養命酒製造はツムラによる株式買収がありくらすわの森の運営も8月以降変更があるようです。

ミュージアム自体は昨年見学した、サントリーの大町工場のように自然を生かした森の中にありました。

工場見学会は最初にビデオで工場の概要等の説明を受けた後にセルフでの工場見学をするようになっていました。

申込時での説明では当日は工場が稼働しているはずでしたが、工程内のトラブルのためか見学できるところは全て止まっていた。一部トラブル対応で従業員の方々が設備の調整をされていました。

工場見学会後は皆さんくらすわの森内にあるショップやレストラン等をそれぞれ見学されました。南信は晴れていて天気には恵まれました。

見学会後は予定通り松本への帰路につきました。

城北地区人権啓発推進協議会主催公演会  
ふつうと云う  
思い込みに気づく

8月3日城北公民館で信州大学教授の伏木久始さんの講演会がありました。

「あなたは自分のことをふつうだと思っていますか？」という問いかけから始まり、スライドを見ながら海外との比較を例にあげました。日本の教室

は全員が前を向いて先生の話を聞く一斉授業スタイルですが、デンマークやフィンランドでは机の配置も決まりがなくグループで対話できるように向かい合わせが一般的です。(この講演会も同じスタイルでした。)床に寝ころぶ生徒もいて自由な雰囲気です。宿題はなく自分で学ぶことを大切にしています。

長野県の教育にも話は及び、音楽会に向けクラスごとに何か月も猛練習したり、無言清掃があつたり、夏休みが1ヶ月なかつたりなど県外から来た先生は驚いたそうです。真面目で几帳面、周囲に合わせることを良しとして生きてきた長野県民としては目からウロコが落ちる思いでした。

周囲に合わせることで安心を得ようとする心理は個性を埋没させるだけでなく、独創的な考えを持つ他者を排除しようとする「集団のふつう」に陥る危険があると言います。その代表的現象がいじめです。AIに聞けばなんでも教えてくれる時代に知識を覚えることはそんなに重要ではなく、その知識をどう活用するかが人間の強みである、そこに奇抜で独創的な人間が必要となってくるのだと言われました。



参加者の一人から長野県で登校拒否児童が多いのは教育に問題があるのでしょうか?という質問が出ました。それに対して先生は、運動会を始め並び方などが軍隊式、やりたくないのにやらなければならぬことばかり、根性や忍耐を求められることが多いのを挙げ、子どもたちは自信を消失している、そしてこれからはやりたいことを応援する時代ですと続けました。

今までこれがふつうと思っていたことは、国や地方が違えば、また個人個人でも見方や考え方が違うのだということがわかりました。

長野県の子どもの明るい未来のためにもまずは私たち大人が変わらねばと思いました。